

2025
11月
vol.5

海とまちをつなぎ 世代をつなぐ 西郷港周辺まちづくり NEWS LETTER

隱岐の島町 都市計画課

電話：2-8580 / メール：toshikei@town.okinoshima.shimane.jp

西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレター Vol.5 をお届けします。このニュースレターでは、現在進行中のプロジェクトに関する取り組みを町民の皆さまへお知らせしています。

今回は、9月末に開催した海の見える交流館周辺整備に関するワークショップの様子をお知らせします。また、実施している社会実験や、その他まちづくりに関連する取り組みについてもお知らせします。

開催報告

海の見える交流館周辺整備に関するワークショップを開催しました

開催日時：令和7年9月27日（土）14:00～16:00 / 28日（日）9:00～11:00

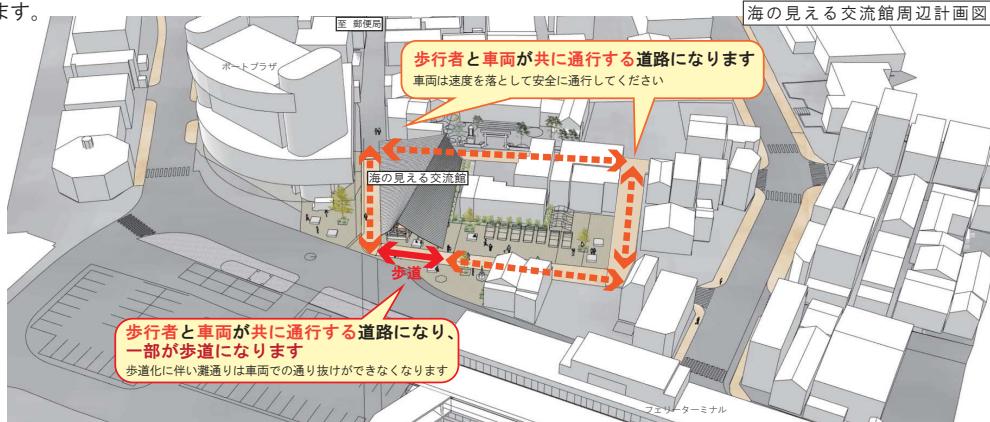
会場：サカータプロス（中町目貫の四54-7）・現地（フィールドワーク）

◆ワークショップ概要

本ワークショップは、海の見える交流館およびその周辺整備の計画について、地域の皆さまに計画内容をお伝えし、現地を確認しながら意見交換を行うことを目的として開催しました。令和7年9月27日・28日の両日、同じ内容で実施し、交流館周辺整備や交流館2階の活用に関する説明のほか、フィールドワークや意見交換を通じて、参加者の皆さまから多様なご意見をいただきました。

◆海の見える交流館周辺道路の整備について

はじめに、交流館周辺のみちの計画についてご説明しました。整備の目的は、歩行者が安心して通行できる環境の確保と、まちと海のつながりを意識した空間づくりです。ポートプラザ横の道路は、車両の速度を自然に抑えるため、幅員を約4メートルに設定する計画です。また、灘通りの一部は歩道とし、車両の通り抜けを制限することで、歩行者の安全性を高めます。これにより、フェリーターミナルから交流館、ポートプラザへとつながる動線が形成され、地域内の回遊性が向上するとともに、海辺の景観を活かした交流空間の創出が期待されます。さらに、舗装仕上げの色や素材を工夫することで、歩きやすさと景観の調和を図ったみちづくりを行います。



◆海の見える交流館2階の活用について

続いて、交流館の整備計画について、特に2階部分の活用に焦点を当て紹介しました。2階は多世代が集える交流スペースとして整備を進めており、福祉事業者による活動、高齢者のサロン、キッチンを活用した料理イベント、養護学校との連携による利用など、地域の多様なニーズに応える場として活用していく考え方を説明しました。

交流館2階イメージ図▶



◆整備計画を現地で確認

会場での説明後、参加者の皆さまとともに実際に交流館の計画地周辺を歩き、整備予定箇所を確認しました。道路にテープを張り、整備後の幅員を示しながら、現地での説明を行いました。参加者の皆さまには計画内容を具体的に体感していただきました。



◆意見交換と参加者の声

フィールドワークの様子
(ポートプラザ横道路)

会場に戻ってからは、意見交換を行いました。交流館の整備や周辺環境の変化について、現状の良いところや今後への期待、2階スペースの活用方法などについて、付箋を用いて自由に意見を記入いただき、参加者同士で共有しました。（以下、意見交換会より一部抜粋）



交流館建設により、周辺の店や民家がどうなるか心配。



地権者の皆さまには説明を行い、交流館の建設について了承を得ています。そのほかの関係者の皆さまについても説明を進めていますが、個人財産にかかるためご協力いただくことが難しい場合もあります。その際はコンセプトを維持しながら柔軟にまちづくりを進めていきます。



交流館周辺の道路の幅は現状のまま良いのでは。灘通りの一部を歩道化すると遠回りになってしまう。



現状の道路幅でも危険は感じないとの意見もありますが、一方で、歩行者が安全に通行できる道とした方が良いという意見も多くあります。また、周辺には複数の迂回路があり、車での通行に大きな支障が出ないようになっています。町の方針としては、歩行者の安全性をより高めることを目的に整備を進めています。



駐車場のスペースが十分あると良い。



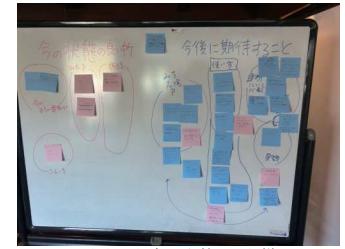
10台程度の駐車もできる広場を交流館横に設ける予定です。そのほか近隣の土地を活用し、少し歩く距離にも駐車場を整備する計画としています。



交流館2階の使い方について、町民の実用性がある建物にしてほしい。



福祉事業者との連携により、障がいのある方や高齢者も目的をもって集まる場を目指します。多世代交流やデジタル教育に加え、小学校、中学校、高校、養護学校との連携も視野に入れています。



◆ワークショップを終えて

今回のワークショップには、10代から70代の幅広い年代の方々にご参加いただきました。終了後のアンケートでは、交流館ができることや周辺環境が変わることについて、「今より良くなる」との期待が多く寄せられました。そうした変化に期待する一方で、「よくわからない」「少し難しかった」との声もありました。今後も具体的なイメージを添えながら、より分かりやすくお伝えできるように努めています。

お知らせ

歩いて楽しいまちに向けて
みちと広場の色と素材を考える
ワークショップ
会場 うみやまもっとあつまれ (中町目貫の四38)

11/22(土) 11/23(日)

13:30～15:30 10:00～12:00 ※両日とも同じ内容です

海の見える交流館の軒下広場や周辺の広場・道路とうみやま通りの舗装仕上げについて、色や素材を考えるワークショップを開催します。これからまちの表情と一緒に考えてみませんか？

開催報告

西郷港周辺にぎわい創出社会実験を開催しています

開催日時：令和7年11月9日（日）～12月11日（木）

場 所：国道485号 西郷港フェリーターミナル前からうみやまもとあつまれ前まで

◆目的

フェリーターミナル前の国道485号の一部は、「うみやま通り」として整備される予定であり、海とまちをつなぐ通りとしての活用を計画しています。この通りは通行のための動線にとどまらず、周辺施設の利用前後や移動の合間に過ごせる「みち広場」としての機能を持たせることで、まちの中に新たな滞留の場を生み出すことを目指しています。

今回の社会実験では、既設のうみやまもと広場と歩道をにぎわい創出空間として活用するため、車道側に仮設の歩道を設け、歩行者が安全に通行できる環境を確保したうえで、ベンチやテーブル等を配置し、歩道と一体化した滞留空間を試行しています。このような空間が、日常の中で人の滞在や交流の契機となるかを検証し、整備に向けた今後の検討に活かしていきます。

◆内容

実験空間では、既設歩道側に整備した滞留空間を活用し、様々な過ごし方の試行を行っています。

くつろげるテーブルスペースのほか、近隣店舗の協力によるオープンカフェや子どもが遊べるスペースを設けています。また、時間帯によっては屋台による軽食や弁当の販売も行われており、通行者が立ち寄りやすい環境づくりを通じて、空間のにぎわいの可能性を検証しています。



◆西郷港周辺にぎわい創出社会実験に屋台出店いただける方を募集しています◆

時間帯

①11:00～13:00 / ②13:00～15:00 / ③15:00～17:00 / ④17:00～20:00

期間中は、平日・休日にかかわらず何日でも申し込みできます。時間帯は①～④のうち、何時でも申し込み可能です。屋台の枠、テント、テーブル、椅子はご用意します。詳細は都市計画課までお問い合わせください。



「西郷港まちづくりフェス 2025」を開催しました



詳細は都市計画課インスタグラムでも公開中です

開催日時：令和7年11月15日（土）

場 所：うみやまもとあつまれ及び広場、国道485号西郷港フェリーターミナル前

本イベントは、隠岐高校商業科3年生まちづくり班が企画・運営を行い、世代をつなぐまちづくりの一環として実施されました。

当日は、フェリーターミナル前の国道485号を歩行者天国とし、まちづくり拠点施設「うみやまもとあつまれ」および周辺広場を活用した空間づくりが行われました。会場では、ゲーム大会や飲食スペースの設置など、来場者がそれぞれの目的で楽しめる場となりました。

ゲーム大会には、7歳から20代までの幅広い世代がエントリーし、うみやまもとあつまれ内での対戦を通じて世代間の交流が生まれました。大会の運営は高校生が主体となって行い、受付や進行、会場整理などを通じて地域との関わりを深める機会となりました。



▲会場の様子



▲ゲーム大会の様子



▲ゲーム大会の様子

一方、屋外では屋台出店を含む飲食コーナーや隠岐高校商業科の販売実習ブースが設けられ、来場者が飲食や買い物を楽しめるスペースとしてにぎわいました。



▲会場の様子



▲飲食スペースの様子



▲企画・運営を行ったまちづくり班メンバー

今回のフェスは、高校生による企画を通じて、地域に新たなにぎわいが生まれる可能性を示す取り組みとなりました。今後も、若い世代の視点を活かしたまちづくりの展開が期待されます。

参加報告

スマートアイランドEXPO2025に出展し、官民連携に向けた対話をおこないました

開催日時：令和7年10月9日（木）

場 所：Tokyo Innovation Base（東京都千代田区丸の内3丁目8-3）

国土交通省の依頼を受け、まちづくりの取り組みを紹介し、離島での事業展開に关心を持つ民間企業との意見交換を行いました。複数の企業から具体的な関心や質問が寄せられ、官民連携に向けた対話の機会となりました。

今後も地域の課題や可能性を共有しながら、持続可能なまちづくりに向けた協働を進めていきます。官と民が価値を共有し、つながることで世代をつなぐまちづくりを育む流れを踏まえ、隠岐の島町のまちづくりに根差した官民連携の可能性を開いていきます。

スマートアイランドEXPOの様子▶

